

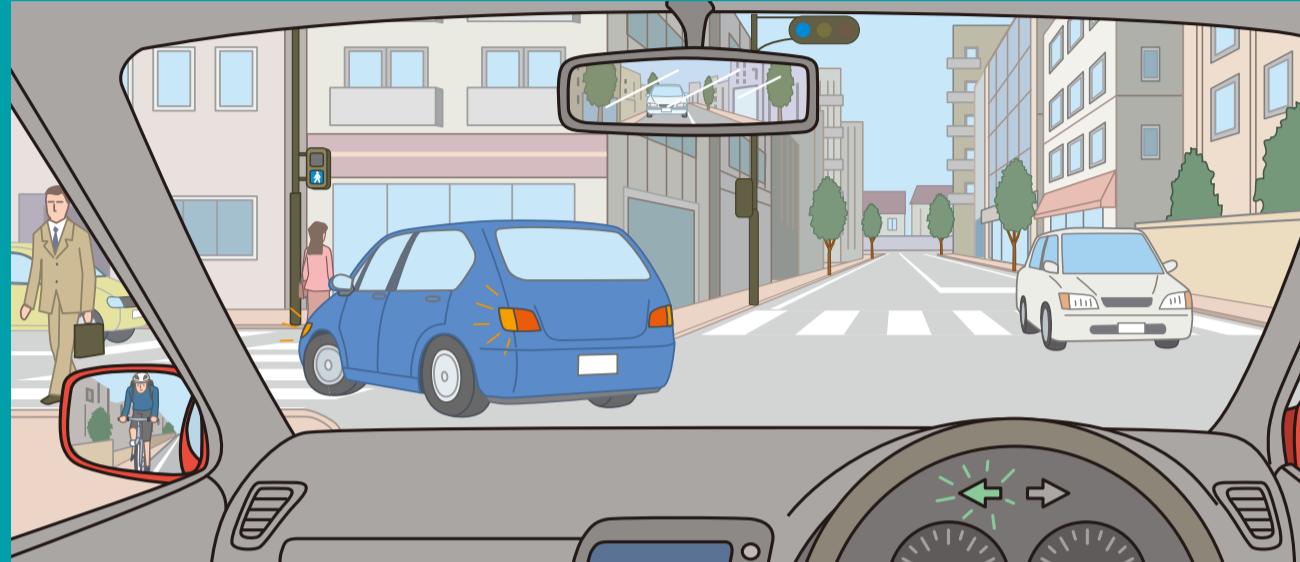


危険予測トレーニング

第96回 前車に続いて交差点を左折する時(四輪車編)

あなたは交差点を左折するところです。

停止していた前車が発進したので、それに続いて左折を開始しようと思います。安全に走行するためには、どのようなことを予測する必要がありますか？



交通事故を回避するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を高めるための題材を提供します。今回は四輪車のドライバーに、前車に続いて交差点を左折する時の危険について考えてもらうためのKYTです。

活用方法

1. 少人数のグループをつくります。
2. 「交通場面のイラスト」を見ながら、意見を出し合います。
3. その後、「解答・解説※」を参考にして、どんなことに気をつければ良いか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト(カラー・A4版)」は下記SJホームページでご覧いただけます。またPDFファイルもダウンロード(無料)できます。

【使用上の注意】
 ●営利目的での利用はおやめください。
 ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
 ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。
 本田技研工業(株) 安全運転普及本部
 TEL: 03(5412)1736 E-mail:sj-mail@spirit.honda.co.jp

© 本田技研工業(株)

SJ クイズ ?
四輪車・自転車編

Q1

スマートフォンや携帯電話等の使用による交通死亡・重傷事故件数^{※1}は近年、増加傾向にあります。2024年は136件発生しましたが、これは2020年の何倍になっているでしょう？

- ①約1.5倍 ②約2倍 ③約2.5倍

※1 第1当事者が自動車(乗用車、貨物車、特殊車)の件数。第1当事者は交通事故の当事者のうち、過失が最も重い者または過失が同程度の場合は被害が最も軽い者。第2当事者は過失がより軽いか、過失が同程度の場合は被害がより大きいほうの当事者。

Q2

携帯電話等を操作しながら自転車を運転したことによる交通死傷事故件数は2020年から2024年にかけて114件発生しました。運転者(第1・第2当事者)の年齢層別にみると、最も多いのは19歳以下ですが、その割合は何%でしょう？

- ①約45% ②約55% ③約65%

Q3

自動車安全運転センターは「ながらスマホ」の危険性を検証するための実験^{※2}の中で「スマホ使用なし」と「スマホ使用」での自転車運転中の視線の変化を計測しました。その結果、「スマホ使用」の場合に前方を注視している割合は「スマホ使用なし」と比べて最大で何%低下したでしょう？

- ①約25% ②約35% ③約45%

※2 自動車安全運転センター安全運転中央研修所の中に設定したコース(設定路地区間、信号交差点、踏切および自転車通行帯等を走行する全長約460m)で実施。



「解答」はP7下、「解説」は下記SJホームページでご覧いただけます。
<https://global.honda.jp/safetyinfo/sj/>

国際交通安全学会誌
「IATSS Review」Vol.50-2発行

■ IATSS Reviewとは

交通とその安全に関する諸問題を学際的に考察する、国際交通安全学会誌です。編集部会において特集テーマが企画され、自然・社会・人文等の諸科学領域の研究者、行政・実務の担当者など幅広い執筆陣による論文、論説、報告、紹介などで構成されています。

■ Vol.50-2の特徴

特集/インクルーシブな交通社会

モビリティ、インフラおよび観光の観点から、わが国を中心とした各種取り組みについて紹介し、インクルーシブな交通社会をつくるために必要となる制度技術面のあり方について考えることをねらいとしています。

こちらからご覧ください→<https://www.iatss.or.jp/publication/iatss-review/>

■問い合わせ先 (公財)国際交通安全学会 TEL:03-3273-7884 <https://www.iatss.or.jp/>



SJ 編集部だより

～交通事故死者ゼロを目指して～

今号の「TRAFFIC SCOPE」(P7)は駅の一一般車乗降車場で観察を行った。

朝のJR「藤沢駅」は停車しようとするクルマと発進するクルマが入り乱れており、一般車乗降車場に入ってくるクルマのドライバーは停車するためのスペースを探すことや、電車の発車時刻に間に合わせることに意識が向いているように感じられた。観察中、右ウィンカーを点滅させているクルマの前に停車して、そのクルマの発進を妨げるケースが見られた。発進しようとするクルマに道を譲れば、自車がスムーズに停車できるはずだが、ウィンカーの点滅を見落としたのだろう。駅のロータリー内はクルマだけでなく、乗降車する歩行者の往来もあるため、ドライバー

は落ち着いて周囲の状況を確認する必要がある。

また、一般車乗降車場の長時間停車も気になった。人を送りに来たクルマは目的を果たすと、すぐに走り去っていく。その一方で、人を迎えに来たクルマは乗せる相手が現れるまで、そのまま停車を続ける。停車時間に関するルールは駅によってまちまちだ。JR「新横浜駅」では「車に乗った状態でも人を待つことはできません」という立札が設置されているにもかかわらず、1時間近く停車したクルマがいた。一般車乗降車場のスペースには限りがある。長時間の停車は控えることはもちろん、前車との間隔を詰めるなど、多くのクルマが利用できるように配慮してほしい。